

工学部FD委員会

平成22年10月21日

平成21-22年度授業アンケートの結果とその活用について

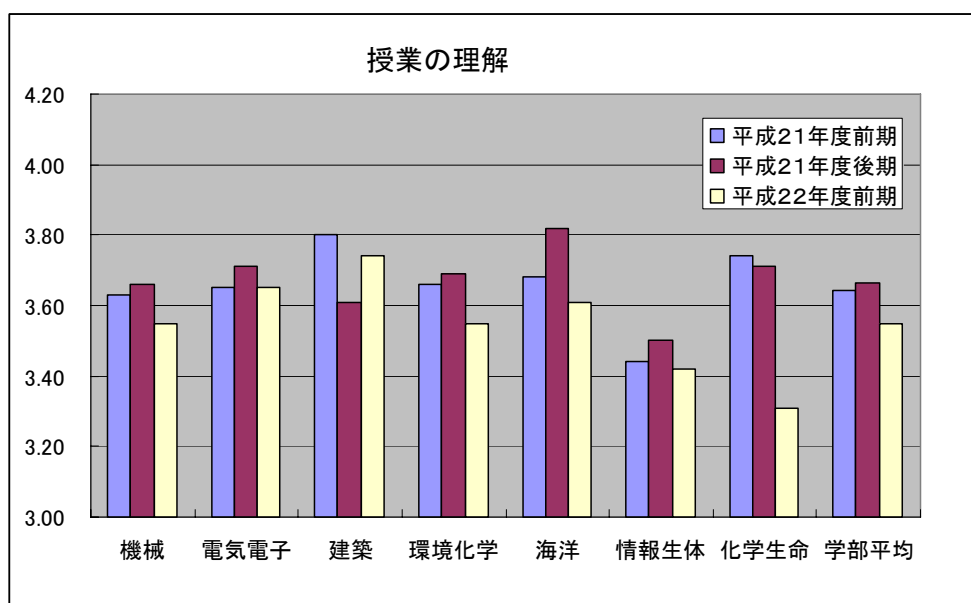
工学部FD委員会では学生による授業評価アンケートを実施しています。平成22年度前期に実施したアンケートデータの結果と平成21年度の結果の一部を公表します。この授業評価アンケートは、学生が授業内容の理解を深めて学習目標を達成するとともに教育の質の充実を図る活動の一つとして継続して行っています。平成21年度前期～平成22年度前期までの授業アンケート結果を年度(前期・後期)順に比較して示してあります。

授業アンケートでは15項目について質問しました。各質問の内容は5つの回答(評価)に分けて行いました。その質問項目の中で④, ⑦, ⑭は以下のようなものでした。

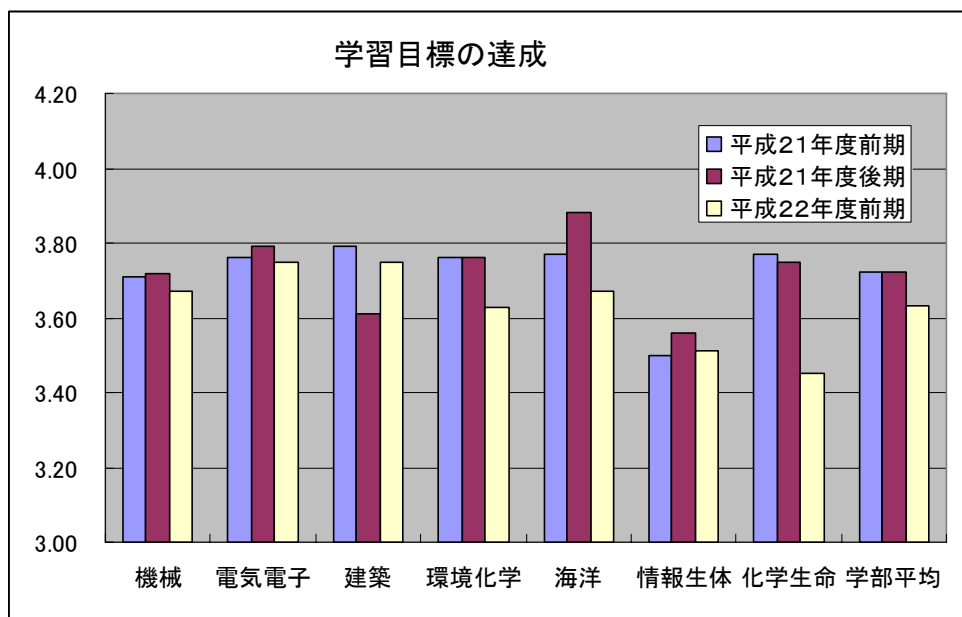
項目	質問の内容	評価				
		5	4	3	2	1
④	授業は理解できた	大いにそう思	そう思う	どちらとも言	そうは思わ	全くそうは思わない
⑦	シラバスに記載された授業目標を達成できそうか	大いにそう思	そう思う	どちらとも言	そうは思わ	全くそうは思わない
⑭	1コマ(90分)の授業に対して、予習と復習の時間を合わせてどれ位をかけたか	3時間より	2～3時間	1～2時間	30分～1	30分未満

これらの質問について各学科(または工学部全体)の回答結果をまとめてみると、以下のような結果になります。これは学科で開講された全講義科目の平均値であり、以下の棒グラフは3を基準にして示してあります。21年度から学部の改組がありましたが、改組後の学科で示してあります。

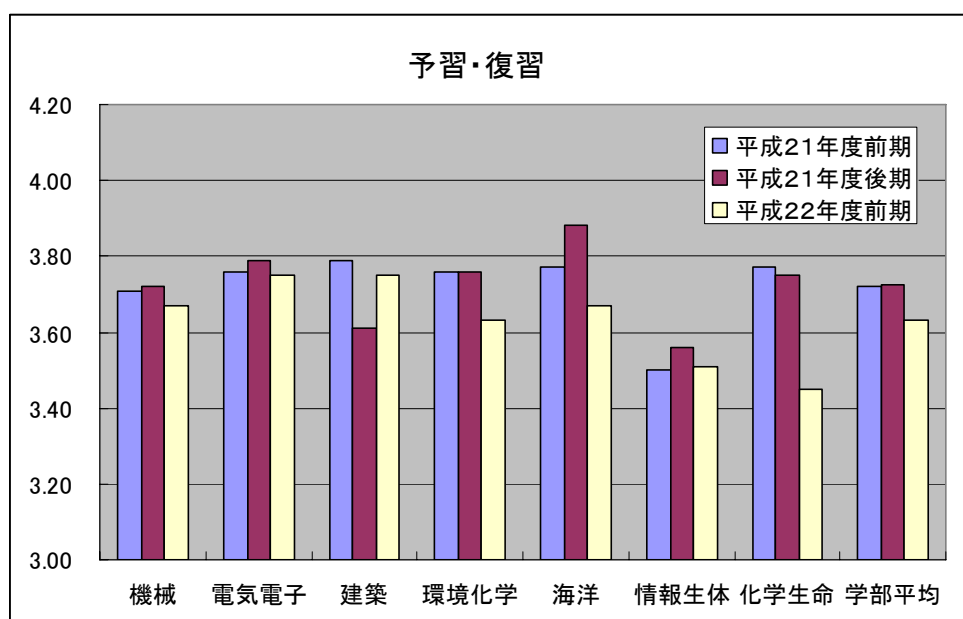
- (1) 図は、項目④の質問(授業は理解できたか)に対する結果を示します。学科によって若干の相違や多少の年度・学期による上下は見られます。平成22年度は、昨年度と比べて授業の理解が深まったと答えた学科が若干減少していることがわかります。



- (2) 図は、項目⑦の質問(シラバスに記載された授業目標を達成できそうか)に対する回答を示しています。今年度は多くの学科で昨年度と比べて若干減少しています。(1)で示した理解の項目と関連しますが、学習目標の達成が十分で無いと思う学生が多いことを示しています。



(3) 図は、項目④の質問（1コマの授業に対して、予習・復習の時間を合わせてどれ位かけましたか）に対する結果を示しています。学科によって少し異なっていますが、昨年度と比べて今年度は、減少しています。学部の平均が約 3.6 ですから、約 2 時間程度であることを示しています。予習・復習は授業の理解度を高めるために非常に重要であると、シラバスに示してありますが、④授業の理解に対する結果と、⑦の授業目標の達成は、密接に関連しています。今年度は、多くの学科で予習・復習の時間が減少していることと関連しているようです。



以上のように前期と後期に実施している授業アンケートは、学生がシラバスに示された学習目標を達成し、それに相応しい十分な学力を有するような学習・教育となっているか等の現状を把握するためのものです。このため、今後実施する授業アンケートには正確に回答してもらうことで、一層の改善に繋がっていくことを理解して下さい。授業アンケートの結果を受けて、授業担当の教員は、科目ごと授業計画改善書を次年度に向けて作成し、「目標の達成度の向上」を図る試みを行っています。

より詳しい学各科の分析結果は、各年度毎に工学部 FD 委員会報告書で報告しています。